

令和4年度事業実績

公益財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会

今年度は過去2年間の新型コロナウイルス感染症の影響による事業の中止や縮小に比べて、療育・自立支援事業の実施地区や件数が増え、また、全道福祉大会も規模縮小とはなったが開催することが出来た。

第1 主な事業実績

1 療育・自立支援事業

(1) 作品コンクール

(一般会計)

「第70回手足の不自由な子どもを育てる運動」の取組として、手足の不自由な子どもの作品及び友情の作品を特別支援学校、小中学校に募集し、応募あった作品を審査の上、優秀作品の表彰・一般展示を概ね例年どおり行った。

・応募期間 7月～11月

・応募状況

□手足の不自由な子どもの部 (作文・詩、図画、書道、手芸工作)

・応募校 8校(前年度 9校) ・作品数 242点(前年度 227)

□友情の部 (作文・詩、図画)

・応募校 3校(// 4校) 総数・作品数 42点(// 78)

・入選作品数

□手足の不自由な子どもの部 38点(38) □友情の部 13点(13)

※協会ほか道など13後援者から表彰状、副賞楯の寄贈

・一般展示 ・令和5年1月31日(火)～2月1日(水)2日間

・道庁本庁舎1階道政広報コーナー ・来場者 143人

(2) 育英奨学金

(育英基金特会)

当協会に置く岩田・アメフト育英基金から、肢体不自由で経済的等の困難な事情にある特別支援学校高等部等の高校生に奨学金交付を例年どおり実施した。

・応募校・生徒数 10校、16人(前年度 13校、23人)

・交付決定 13人(前年度14人)、一人奨学金3万円交付

・交付時期・方法 令和4年9月、在学校を通じて奨学生に交付

(3) 療育キャンプ事業

(自立支援特会)

在宅の障がい児者及び家族が、専門機関の医師やPT、OT等医療職から、日常生活や社会活動における正しい知識や訓練方法等の指導を受けるとともに、参加者の研修や交流を深める事業の実施を、例年、道立子ども総合医療・療育センター、道立旭川子ども総合療育センターをはじめ特別支援学校、医療福祉機関、ボランティア団体等の協力のもと行ってきたが、実施は7地区であった。

実施 7地区(前年度 4地区)

参加 障がい児者78人(35人)、家族等 153人(66人)

(4) レクリエーション活動推進事業

(自立支援特会)

肢体不自由児者の自立と社会参加の促進を目的にレク活動を行う父母の会等に対し助成するなど事業の推進に取り組み、件数は大幅に少なかったものの、密を避ける感染防止など工夫に努めた行事が行われ、人と接する機会の制限が続く中、貴重な交流の場を提供することができた。

実施 21件 / 15父母の会(前年度 12件 / 8父母の会)

参加 障がい児者 251人(165人)、家族等505人(313人)

(5) ボランティア・ホームヘルパー派遣事業

(自立支援特会)

障がい児者の自立援助及び家族の負担軽減のためボランティア・ホームヘルパーを父母の会が家庭に派遣する活動を推進。実績は僅少となり、ボランティアの研修会は開催されなかった。

ヘルパー派遣地区 1地区、派遣延べ 30人・11日(前年度 1地区、派遣延べ25人・9日)

研修会 開催なし

2 研修交流事業

- (1) 第32回全道肢体不自由児者福祉大会(旭川大会) (一般会計)
令和2年度から2年連続で開催延期となり、コロナ影響によって1日開催や規模を縮小しての開催となった。限られた父母の会会員や関係者等の参加ともなったが、基調講演や全体会を行い、大会決議事項の採択に至った。
日時 令和4年10月8日(土)13時～16時30分
場所 旭川市障害者福祉センター「おびった」 参加者 92人
- (2) 父母の会会長・事務局長会議(研修) (自立支援特会)
協会・父母の会の活動に資するため、福祉制度・施策や先進事例等の研修を行い、あわせて、活動における諸課題の解決に向けた意見・情報交換を行った。
日時 令和4年7月10日(日)9時10分～11時30分、11月5日(土)13時～16時
場所 道立道民活動センター 大会議室、1050会議室
参加 10父母の会 13人、11父母の会 18人
- (3) 全肢連北海道ブロック地域指導者養成研修会 (自立支援特会)
父母の会の活動を担うリーダーを育成し活性化を図ることを目的として、全肢連主催の全国7ブロック別研修会の北海道ブロックとして開催した。
研修テーマ「車いす等利用時のシーティングと支援機器等の活用について」
日時 令和4年7月9日(土)13時～10日(日)11時
場所 道立道民活動センター 大会議室 参加者 33人、講師・主催側 6人
- (4) 施設職員等研修会 (一般会計)
肢体不自由児通園施設、特別支援学校等の職員を対象に障がい児療育に係る知識、技術の修得・向上を目的とする研修会を、道立子ども総合医療・療育センターの協力により開催した。
日時 令和4年8月27日(土)13時～17時 参加 発達支援センター職員など120人
開催方法 道立子ども総合医療・療育センターからZoomによるオンライン研修
- (5) 全国大会参加 (一般会計)
行政施策や社会の動向、先進事例などを学び、全国の父母の会会員との交流を目的に、全国大会(愛知県)に参加する経費の一部を助成した。
日時 令和4年9月10日(土)13時～11日(日)11時
場所 愛知県豊橋市 ロッソールホテル豊橋 参加 来場2人

3 情報提供・啓発事業

- (1) 「手足の不自由な子どもを育てる運動」の推進 (特別会計)
日本肢体不自由児協会が作成する「絵はがき」、「クリアファイル」の頒布・寄付を広く道内の団体・法人、企業、行政機関等に募ることを通じて肢体不自由児者に対する理解と啓発に努めた。
活動期間 7月～12月
- (2) 会報『道肢連協』の発行 (一般会計・自立支援特会)
当協会や父母の会における各種の活動のほか、有識者や当事者、関係者の声、情報などを広く紹介する会報を年4回発行した。
- (3) ネット活用
ホームページによる当協会の情報発信及び行政や関係団体からの情報を父母の会関係者に電子メール主体での適宜の提供・伝達に努めた。

第2 協会運営及び財源確保の取組

【協会運営】

理事会4回、定時評議員会1回(Web併用開催)、会長・副会長会議を適宜開催・実施した。

【協会の運営、事業実施の財源】

・新型コロナウイルスの影響が続き、事業の中止・縮小に伴い、補助金や助成金の大幅な減額も継続。さらに、飲料自販機売上還元金も3年連続で減少し、通常の2割減収となった。
・自販機設置に向けては、当協会の自販機は公共的施設での設置が7割以上を占め、市役所等の公共施設の改築等の情報収集を基に、関係する父母の会とも連携しながら設置要請を行った。